

成果指標				
成果指標	誤検針と判明した件数÷検針委託総件数＝誤検針率			
指標設定の考え方	適正な水道料金を算定するため、正確な検針業務に努める。			
区分年度	26年度	27年度	28年度	
目標	0	0	0	0
実績	0.01	0.01	0.01	0.01

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	3	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	C
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	平成28年度より、今までのハンディターミナル検針器による検針業務に代わり、トータル収納サービスによる検針器を使用した検針業務に移行する。今後は新システムの導入に伴い事務の効率化を図るとともに、水道利用者に対して、正確な使用水量・料金の通知を行えるよう精度の高い検針業務に努める。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	C
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	3	C
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	3	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	4	
課題認識	ハンディターミナル端末器による検針業務を迅速に実施することで、事務の効率化や水道利用者に対して、正確に使用水量・料金の通知が行われているが、市民ニーズは多様化しており、今後は、より精度の高い検針業務を実施するために、検針日の固定化や更なるサービスの提供を目指すことも検討する必要がある。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価 (行政評価委員会)	
-------------------	--

経営者会議の最終判断

事業の方向性	現状のまま継続する。
意見、課題	